

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200139		
法人名	社会福祉法人 長福会		
事業所名	グループホームデイパーク大府 1ユニット		
所在地	愛知県大府市横根町箕手94-3		
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、利用者の思い、生活スタイルを大切に、一人ひとりが望む生活に向けた支援に努めていきます。ご家族様とのきずなを大切に、地域との交流も徐々に増やしていきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2394200139-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の基本理念には、地域に開かれた事業所を目指すことを掲げてあり、ホームでも地域の方や家族が気軽に訪問してもらえるような雰囲気づくりが行われている。地域の方との交流については、運営法人の関連事業所と連携しながら行われており、関連事業所で行われている様々な行事にホームからも参加する機会をつくり、利用者の楽しみと外出につなげる取り組みが行われている。ホームの職員体制は常勤職員中心の少人数のチームで支援体制がつけられてあり、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげている。職員研修も年間を通じて実施しており、資質向上につなげる取り組みが行われている。また、毎月のホーム便りには、職員間で利用者一人ひとりに合わせた報告が添えられてあり、家族に対する細かな情報提供が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年2月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有して実践に繋げられるよう努めている。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えながら、日常的に職員間で意識するような働きかけが行われている。理念には、地域に開かれた事業所を目指す内容が記載されており、ホームでの地域の方との交流に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事(お祭り)に参加したり、法人の桜祭り・夏祭りなど共に参加し交流を図ったり、外出時挨拶を交わしたりしている。	地域の方との交流については、運営母体の特養を通じて行われており、ホームでも行事に協力する等の取り組みが行われている。また、ホームでも子ども神輿等を通じた交流が行われており、地域の方にホームを知ってもらう機会につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人内の喫茶には地域の方の協力や地域の体操教室に参加したり、リハビリマシンを解放し使用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度推進会議をおこない、ご家族社会福祉協議会の方に、取り組み状況を報告し意見アドバイスを頂いている。	会議に複数の家族の参加が得られていることで、ホームへの理解を深めてもらい、定期的な交流が行われている。地域の方の参加が得られていることで、会議を通じて地域の方との情報交換の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	推進会議にて担当の方の意見や電話にて、協力関係を築くようにしている。	運営母体の職員が市の行事(福祉フェア)に役員で協力する取り組みが行われているが、ホームでも研修会への参加等の機会がつけられている。また、地域包括支援センターとも認知症サポーター養成講座等を通じた交流が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会を通し勉強会もあり身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関施錠は状況を見ながら、施錠しない取り組みをしています。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内で利用者が圧迫感を感じないような配慮が行われている。また、運営法人で2か月毎に専門の委員会を開催している他にも、定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会に参加し職員に伝え防止に努めています。(スピーチロックなど)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会や管理者からの話を聞く事はあっても、理解し活用までは至らない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が行なっているのが現状。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様やご家族からの意見、要望などがあつた場合、管理者に話し職員同士 共有し対応する。できるように努めています。	運営母体の特養で行われている行事の際には、家族の参加が得られており、交流の機会につながっている。家族からの要望等については、内容に合わせたリーダーや管理者による対応が明記されている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	家族との交流が運営母体を通じて行われているが、ホームでも家族との独自の交流の機会をつくる取り組みについて、今後の検討及び取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議にて、全員で意見交換し話し合っています。	毎月の職員会議の実施や日常的な職員間での情報交換を行いながら、職員からの意見をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、リーダーによる職員との定期的な面談が行われており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回面談があり、各自目標を持ち、向上心が持てるよう、職場作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内にて、勉強会、研修会また、外部研修があります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年に一度管理者同士の交流会があり、その場で情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の話聞き傾聴し職員と共有し、寄り添うケアに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望に耳を傾け信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話をしっかり聞き職員全体で、統一したケアに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人達ができる事を、把握し、調理レクなど、取り入れ共有した生活ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や外出時、時間をもらい日々の出来事をお話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の方の面会の中でも、日々のお話をしながら、大切な関係が途切れないよう努めています。	利用者の中には定期的にホームに訪問して利用者と交流したり、家族の協力を得ながら行きつけの美容院を継続する等、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族との外出も行われており、家族と過ごす機会が得られている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係を把握し、より良い関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者が必要に応じて対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、会話をしながら希望、要望を聞き取り対応できるように努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、職員間で情報を共有しながら利用者の意向等の把握が行われている。また、毎月のカンファレンスの機会がつくられており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様とコミュニケーションを取り、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録記入、申し送りを行ない日々の体調変化の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議や日常話の中で、疑問点や改善点など共有し、反映している。	介護計画は6か月で見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、1日1ページの記録用紙に記録を残し、毎月のカンファレンスを通じた職員間でのチェックを行いながら、6か月でのモニタリング及び評価が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録に残し話し合いの場を持って反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人内のイベントに参加したり、必要に応じて話し合い、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の資源のは不十分だが、スーパーへの買い物、美容室の利用、ショッピング、徐々に増えてきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の希望やかかりつけ医を決め、状況に応じて受診、往診を行っている。	協力医による定期的及び随時の医療面での支援が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もあり、受診等の対応が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、利用者の医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員と看護師と連携をとり対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心で行っているが看護師、介護職員と話し合い対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の希望を受け入れ職員間での共有はしていたが(例:1件のみ)今後ご本人を交えた終末期の迎え方課題です。	ホームでの看取り支援にも前向きな取り組みが行われており、開設2年目であるが、家族との話し合いを重ねながら初めての看取り支援が行われている。また、運営法人の特養への移行も可能であり、利用者や家族の意向に合わせた支援が行われている。	ホームでの看取り支援が行われたことで、様々な経験を得る機会にもつながっている。ホームでの支援を望んでいる方もあり、ホームの継続的な取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルがあり、意識はできているが、実践力は不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施はされているが、身につけているまではいかない。地域との協力体制、課題です。	年2回以上の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。事業所間で連携しながら消防署職員の協力も得られている。また、備蓄品は特養に確保されているが、ホームでも今年度より水の確保が行われている。	地域の方との協力関係についても積極的な取り組みが行われている。ホームの取り組みを継続しながら、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重し言葉かけをするように努めています。	運営法人で掲げられている「基本方針」には、利用者の思い、生活スタイルを大切にすることを記載されており、職員による利用者への言葉遣い等の対応にもつなげている。また、接遇にもつながる職員研修の取り組みも行き、振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべくその方のペースにと心がけ、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にと努めているが、日によっては職員の都合になってしまう場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感に気を付けご本人の好みに合わせて声掛けするよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食・夕食作りを月に各2回、準備・作る・食す・片付け楽しみながら、行っています。	ご飯と汁物はホームで用意しているが、おかず類は関連事業所の厨房の職員と連携しながら提供しており、利用者の盛り付け、片付け等に参加している。また、今年度より、月2回の朝食、夕食をホームのキッチンで材料から調理する取り組みが行われている。	ホームでの食事作りの取り組みが始められているが、今後に向けた、食事作りの回数を増やすことができるような検討及び取り組みにも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事、水分摂取のチェック、その方の日々の状態、体調に合わせた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後3回、口腔ケアの声掛け、義歯の消毒、ケアの出来ない方の介助、行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	支援の必要の方は排泄チェックをし、失敗のないよう、不快感のないように心がけています。	利用者全員の排泄記録を残しながら、日常的な申し送りと合わせて職員間での共有に取り組んでいる。職員間で利用者の排泄に関する検討を重ねながら、排泄状態の改善につなげた事例もある。また、看護師や薬剤師等との医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には、起床時の水分摂取・適度な運動の声掛けを行ない、必要に応じて服薬しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴を好まれる方が多く週3回入浴行っていますが、時間帯はイベントなどもあり職員の都合にて、行っているのが、現状です。	月曜日から土曜日の間に週2～3回の入浴ができるように、職員間で利用者の状況等に合わせた声かけ等の対応が行われている。季節に合わせた柚子湯等の入浴も行われている。また、関連と連携しながら大浴場の浴室で入浴する機会もつくりられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースで、状況に合わせて休息したり、安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの変化や症状に気をつけ、服薬の変更時の変化には職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	職員間で共有し楽しく過ごして、もらえるよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換して頂けるように、法人レク・散歩・外出レク、時々買い物など、出かけるようにしていますが、利用者様が平均的に行けるように努めています。	ホームから離れた場所にある特養の行事への参加や専用の器具を活用したりハビリに出かける等、定期的な外出の取り組みが行われている。また、買い物や喫茶等の外出支援の他にも、利用者の希望に合わせた個別の外出の機会もつくりられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設の方で、決まった金額お預かりし、お出掛けの時必要に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいと、言われる方には、施設の電話を使用してもらい、また、年2回暑中見舞い、年賀状を出して、もらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有時間は不快感がないように努めフロアには季節を感じる物を利用者様と一緒に作成したり、お花を飾ったりしています。	ホーム内は落ち着いた色彩の壁紙や採光に優れていることもあり、利用者が毎日の生活を穏やかに過ごすことができる生活環境となっている。また、フロア毎に検討しながら、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事・おやつの時間以外は、利用者様同士が思い思いに、過ごしてもらえるように、自由に座ってもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の希望に答えられるよう、ご本人やご家族と相談しながら、好みの物を飾ったり、ご家族にも協力頂いています。	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた使い慣れた家具類や好みの洋服等の持ち込みが行われてあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、収納スペースが大きいことで、居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	声掛け、表示しながら、安全な環境で、過ごしてもらえるよう、工夫し努めています。		